

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
鹿児島医療技術専門学校		平成5年3月10日		宮里 浩二		〒 891-0133 (住所) 鹿児島市平川町字宇都口5417-1 (電話) 099-261-6161		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 原田学園		昭和34年10月20日		原田 賢幸		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央2丁目4118番 (電話) 099-268-3011		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
医療	医療専門課程	言語聴覚療法学科		-	平成22(2010)年度	平成29(2017)年度		
学科の目的	言語聴覚療法に関する知識及び技術を教授し、良識ある人格の形成に努めると共に、地域社会に貢献し得る有能な人材を育成する。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	取得可能な資格:言語聴覚士国家試験受験資格, NLPプラクティショナー							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,720 単位時間	2,080 単位時間	740 単位時間	900 単位時間	0 単位時間	
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
160 人	61 人	0 人		0 %	5 %			
就職等の状況	■卒業者数(C) : 23 人							
	■就職希望者数(D) : 20 人							
	■就職者数(E) : 20 人							
	■地元就職者数(F) 16 人							
	■就職率(E/D) 100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 80 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 87 %							
	■進学者数 0 人							
	■その他							
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無							
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL							
当該学科のホームページURL	https://www.harada-gakuen.ac.jp/igisen/gakka/st/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					3,720 単位時間	
		うち企業等と連携した演習の授業時数					1,020 単位時間	
		うち企業等と連携した演習の授業時数					120 単位時間	
		うち必修授業時数					3,120 単位時間	
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					930 単位時間	
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					120 単位時間	
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					900 単位時間		
	(B:単位数による算定)							
	総単位数	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位	
うち企業等と連携した演習の単位数					単位			
うち必修単位数					単位			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位			
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位			
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					1 人		
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					0 人		
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					5 人		
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人		
	計					6 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					6 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

目まぐるしく変化・進展する医療・福祉情勢において、高度な実践能力と豊かな社会性を備えた人材が求められている。当校では、そのような人材の輩出を念頭に、「人を助けたい、人の役に立ちたい」という想いを持つ医療・福祉のプロフェッショナルを育成することを目的としている。

そのため、臨床実習指導者や教育課程編成委員会での意見を交えるなどし、高い臨床実践能力を学ぶための多岐にわたった教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、専攻分野に係る企業関係者等からなる委員と当該学科の専任教員により組織され、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等と連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成に活かすことを目的としている。

教育課程編成委員会は、学内委員会の教育委員会(運営)と当該学科(実施)を中心に運営し、教育課程全般に関することをはじめ、当該学科に関する教育課程などを中心に委員との意見交換を行い、有用な意見について学校全体もしくは学科での検証を行ったうえで教育課程へ反映することとしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
小倉 道広	一般社団法人 鹿児島県言語聴覚士会 理事	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
高谷 哲也	国立大学法人 鹿児島大学 教育学部 准教授	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	②
當房 裕幸	ことばのジム くちトレ-さぷり- 管理者/言語聴覚士	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
戌亥 啓一	鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚療法学科 学科長		—
松尾 康弘	鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚療法学科 副学科長		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7-8月・2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年7月13日 14:30～15:30

第2回 令和7年2月15日 10:10～11:10

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育の質に関して検討がなされ、教育の質的評価について入学時からの伸び率を算出することが提案された。今後の展開を含め、授業評価の内容も見直しが図れないか検討を行い、教育の質を評価することにつなげていくことがまとめられた。特に低学年の演習や実習前の対応やオリエンテーションでの工夫については、学生側の要因、実習施設への説明・協力方法、教員のフォロー、学校側の取組についての情報提供などが重要であること、学内での取り組みとして、客観的に自分を観察できる授業が有用なのではないかと意見が得られた。

1年生の自己肯定感については、学業面と実習・臨床で求められる評価軸には違いがある点について意見が上がり、基礎的な社会生活面への実習指導に対する実習指導者の受け止めとして、大学で行われている大学と施設の協力方法について具体例が挙げられ、各委員より実習地側と学校側の意思疎通を図ることの大切さが強調された。

また、本委員会での討論のような内容を学生が知ることの有用性について意見が上げられた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

言語聴覚療法分野での学生指導経験豊富な指導者が在籍し、実習施設として厚生労働省へ登録済みの施設であること。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

年に2回実習施設の指導者を集め、前年度の実習状況・結果の報告、今年度の実習予定、実習に先立つ実習予定学生・実習予定施設の面談、その他、学生・施設指導者・学校教員との連携方法、臨床実習指導者講習会、指定規則改訂に伴うカリキュラムなどの実習関係情報の伝達・説明および質疑応答を行っている。また、実習施設の現況を確認するため、受け入れ施設の指導環境、指導者の意見、施設環境、実習中の学生の生活環境等の把握を行っている。新規および前回実習生受け入れから期間の開いている実習施設・指導者には、教員より当科カリキュラムおよび実習目標・成績評価等の説明を行っている。実習開始以降は、実習開始直後に教員が指導者と電話にて実習の開始・導入状況を確認し、その内容等に応じて次回打ち合わせの日程を決めている。実習中は、指導者が主に学生が記載・提出する実習日誌および学生との対話から、実習の進捗状況を確認・評価している。そして、その結果をもとに教員による実習施設への訪問あるいは電話やリモートにより実習内容の調整等を行う。教員による実習施設への訪問あるいは電話やリモートによる実習内容の調整においては、教員は学生・指導者双方と面談を行い、学生の実習状況以外に生活状況、指導者との関係性についても両者から意見を聴取、確認し、必要に応じた調整を行う。実習終了後は、実習指導者・学生双方からの書類・口頭を含む報告より学生の到達度を把握し、改善点について検討、今後につなげる対応を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	音声・言語・聴覚医学に必要な神経の構造や機能、また病態について理解を深め、言語聴覚障害領域における専門内容を理解する為の基礎を学ぶ。	ことばの支援センター、児童発達支援事業所はなずな 計2施設
地域言語聴覚演習Ⅱ	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	学習、知覚、知能、測定といった学習面に関する基本的な用語、現象、理論について理解する。	愛と結の街、老健ひまわり、西田橋小田原病院、そらまめキッズ、ことばの支援センター 計5施設
見学実習	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	人の生涯にわたる発達を、心理学の観点から理解することを目標とする。発達段階ごとの特徴や課題を学ぶ。	今村総合病院、仁愛会病院、鹿児島生協病院、アクラス中央病院、上町いまきいれ病院 他6施設 計11施設
評価実習	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	心はどのように測定することができるか、心理測定法の基礎的知識について学習する。	南風病院、豊島病院、鹿児島医療センター、三船病院、ことばの支援センター病院 他18施設 計23施設
総合臨床実習	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	「音」の物理学的・心理学的側面から講義し理解を深めることを目標とする。さらに、音響分析装置を用いて「音声」を観察し、臨床に応用できるようにする。	鹿児島大学病院、南風病院、いまきいれ総合病院、やまびこ医療福祉センター、三船病院 他8施設 計13施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程に基づき、本校は、当該学校の教員に対し、日常の執務を通じて常に適切な研修を行わせるよう努めなければならない。また、研修の計画を立て、実施するに当たっては、研修の効果を高めるために、職員の自己啓発の意欲を発揮させるよう、配慮しなければならない。

なお、各学科の専門分野に関する研修については、年度初めに各学科にて検討し、研修計画を立て、実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会	連携企業等:	日本コミュニケーション障害学会
期間:	令和6年6月1日(土)～6月2日(日)	対象:	専任教員1名
内容:	コミュニケーション障害(発達障害・失語症・聴覚障害等)に対する評価・訓練・支援についての資質向上を図る。		

研修名:	第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会	連携企業等:	日本摂食嚥下リハビリテーション協会
期間:	令和6年8月30日(金)～8月31日(土)	対象:	専任教員1名
内容	摂食嚥下障害リハビリテーション分野の養成教育において国内の新規性のある演題発表(学生発表含む)を行うとともに最新の知見を得る。		
研修名:	第47回日本高次脳機能障害学会学術総会	連携企業等:	日本高次脳機能障害学会
期間:	令和6年11月8日(土)～11月9日(日)	対象:	専任教員1名
内容	急性期や回復期の医学的管理から生活期の医療福祉まで、高次脳機能障害に関する専攻分野についての資質向上を図る。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	第25回日本言語聴覚学会	連携企業等:	日本言語聴覚士協会
期間:	令和6年6月21日(金)～22日(土)	対象:	専任教員3名
内容	言語聴覚障害に関する臨床実習教育についての講習・指導方法について知見を得る。		
研修名:	第51回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会	連携企業等:	厚生労働省・医療研修推進財団
期間:	令和6年8月19日(月)～9月11日(水)	対象:	専任教員1名
内容	より良い学生教育のための高度な知識・技能の習得、質の向上		
研修名:	日本言語聴覚士協会九州地区学術集会鹿児島大会	連携企業等:	鹿児島県言語聴覚士会
期間:	令和7年3月22日(土)～23日(日)	対象:	専任教員2名
内容	言語聴覚士に係る臨床・養成・研究の資質向上を図る。		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会	連携企業等:	日本摂食嚥下リハビリテーション協会
期間:	令和7年9月19日(金)～9月20日(土)	対象:	専任教員2名
内容	摂食嚥下障害リハビリテーション分野の養成教育において国内の新規性のある演題発表を行うとともに最新の知見を得る。		
研修名:	第48回日本高次脳機能障害学会学術総会	連携企業等:	日本高次脳機能障害学会
期間:	令和7年11月14日(金)～11月15日(土)	対象:	専任教員1名
内容	急性期や回復期の医学的管理から生活期の医療福祉まで、高次脳機能障害に関する専攻分野についての資質向上を図る。		
研修名:	第45回医療情報学連合大会	連携企業等:	日本医療情報学会
期間:	令和7年11月12日(水)～15日(土)	対象:	専任教員1名
内容	医療情報に関する国内の新規性のある演題発表を行い、専攻分野に関する専攻分野についての資質向上を図る。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	第26回日本言語聴覚学会	連携企業等:	日本言語聴覚士協会
期間:	令和7年6月26日(木)～28日(土)	対象:	専任教員1名
内容	言語聴覚障害に関する臨床実習教育についての講習・指導方法について知見を得る。		
研修名:	第52回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会	連携企業等:	厚生労働省・医療研修推進財団
期間:	令和7年8月18日(月)～9月10日(水)	対象:	専任教員1名
内容	より良い学生教育のための高度な知識・技能の習得、質の向上		
研修名:	言語聴覚士臨床実習指導者講習会	連携企業等:	日本言語聴覚士協会
期間:	令和7年9月6日(土)～7日(日)	対象:	専任教員3名
内容	言語聴覚士養成の質の向上及び臨床実習を行う養成施設における適切な指導体制の確保		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の結果の公表(公表時期:9月頃予定)により、適切に説明責任を果たすとともに、教職員は、結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努める。

具体的には、学校評価を実施する上での役割を果たす学内委員会の評価委員会にて、学校関係者評価結果をまとめ、学内の決議機関である運営会議にて報告を行い、本校ホームページに公表(公表時期:8月頃予定)するとともに、評価結果を活用するため、評価項目において関連する学内委員会等(教育委員会、学生委員会、入試委員会、財務委員会等)にて、今後の改善方策を検討し、具体的取組みの改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けられているか
(2) 学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか ・人事、給与に関する規程等は整備されているか ・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立った工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保しているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善活用がされているか

(5) 学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した ・社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・出前講座の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

①教育活動において、国家試験の合格率に学科間の差があり、既卒者への支援も含めた対策強化が必要との指摘をいただき、全学的な研修とノウハウの共有を行いながら、各学科でのPDCAサイクルの実践や個別対応を進め、既卒者への支援体制の整備にも取り組んでいる。

②学習成果において、学力や精神面で課題を抱える学生への支援強化、目的意識の再確認、スクールカウンセリングの活用促進が必要との指摘をいただき、教育PDCAの強化と並行して、学習・心理支援体制の充実や成績優秀者への報奨制度の導入に取り組み、学習成果の向上を図っている。

③学生の受け入れ募集において、定員充足率の低下や少子化、高校生の大学志向、医療福祉職への関心の低下などにより、今後も厳しい状況が続くとの指摘をいただき、出前授業や学校見学の強化、WebやSNSによる広報の充実、オープンキャンパスの質向上、入試制度の多様化を進めるとともに、将来的な定員の見直しも検討している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
上村 聡美	公益社団法人 鹿児島県看護協会 常任理事	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
吉満 孝二	一般社団法人 鹿児島県作業療法士協会 会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
中井 康貴	一般社団法人 鹿児島県介護福祉士会 理事	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
野中 康博	公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会 理事	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員

生駒 成亨	公益社団法人 鹿児島県理学療法士協会 副会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
小倉 道広	一般社団法人 鹿児島県言語聴覚士会 理事	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
井ノ上 祐二	公益社団法人鹿児島県済会 南風病院 医療技術部放射線技術科 技師長 / 診療放射線技師	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
高谷 哲也	国立大学法人 鹿児島大学 教育学部 准教授	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	学術機関等の有識者
宮内 美知代	社会医療法人緑泉会 米盛病院 看護師長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
川崎 友義	公益財団法人慈愛会 介護老人保健施設 愛と結の街 介護福祉士長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
湯脇 稔	株式会社カクイックスウィング 営業本部 教育担当スーパーバイザー / 作業療法士	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
益山 康秀	メディカルリテラシーラボ 代表 / 理学療法士	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
當房 裕幸	ことばのジム くちトレ-さぷり- 管理者 / 言語聴覚士	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
水迫 慎也	鹿児島県立錦江湾高等学校 教頭	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	高等学校等の校長等
鬼丸 克彦	平川まちづくり協議会 会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	地域住民
中間 真美	鹿児島医療技術専門学校 保護者	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.harada-gakuen.ac.jp/igisen/school/johokokukai/>

公表時期: 令和7年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者との連携・協力体制を確保するため、文科省「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」において示された情報提供項目に基づき、本校ホームページを用いて、教育理念をはじめとする学校運営全般の必要な情報を提供する。

また、高い臨床実践能力を発揮できる人材を輩出するため、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会、臨床実習指導者会議など企業等との関わりの場にて、教育活動及びその他学校運営に関する情報の提供を行うことを積極的に推進する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の概要 (校長名、所在地・連絡先、沿革、特色、学則) ・目標・計画 (教育理念、3つのポリシー、行動計画)
(2)各学科等の教育	・学科紹介 (定員数等、学科紹介/取得資格等、カリキュラム、シラバス)
(3)教職員	・組織・教職員 (組織図・教職員数)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学 (卒業後の進路、大学院への進学)
(5)様々な教育活動・教育環境	・様々な教育活動・教育環境 (学校行事、クラブ・サークル活動、施設案内)
(6)学生の生活支援	・学生の生活支援 (学生寮紹介)
(7)学生納付金・修学支援	・入試、学費等、学修支援 (入試募集要項、学費等/学習支援等)
(8)学校の財務	・学校の財務 (財務諸表(貸借対照表、収支決算書、財産目録、事業報告書、監査報告書)等)
(9)学校評価	・学校評価 (自己評価結果報告書、学校関係者評価結果報告書)

(10)国際連携の状況	—
(11)その他	・その他 (教職員による地域・社会貢献活動)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://www.harada-gakuen.ac.jp/igisen/school/johokoukai/>
公表時期: 令和7年8月31日

授業科目等の概要

(医療専門課程 言語聴覚療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			コミュニケーション論	コミュニケーションに障害のある方々やその家族への専門的支援、チームアプローチでは、コミュニケーションが必要になる。本科目では対人関係の感性と能力を磨く。	1 通	15	1	○			○		○		
2	○			心理学	「こころ」の問題に興味をもち、取り組む姿勢を持つために、様々な状況での感覚を体験する体験学習を交えながら、基礎となる心理学および臨床心理学について概説していく。	1 通	30	1	○			○			○	
3	○			社会心理学	対人関係並びに集団における人の意識、態度及び行動についての心の過程に関する社会心理学の基礎的な知識と研究法および社会での個人から社会問題まで、多面的な視点から学ぶ。	1 通	30	1	○			○			○	
4	○			アイデンティティの心理学	「アイデンティティ」という観点から自分自身を省察する。将来、対人援助職としての専門性を発揮する基盤としての自己理解を深める。	1 通	30	1	○			○			○	
5	○			医療倫理	臨床において、対象者の人生観や価値観を尊重し、本人のQOLの向上やwell-beingに寄与できる倫理観を得ることを目指す。	1 通	30	1	○			○		○		
6	○			人 間 理 解 と キャリア形成Ⅰ	言語聴覚士として自立した価値観を持つことの重要性について学ぶため、自身を顧みること、先人の価値ある言葉を通じて、自己・他者の人間理解を深めていく。	1 通	30	1	○			○		○	○	
7	○			学 び の 基 礎 と 発展Ⅰ	指す学習や成長に対していかに効果的・積極的に取り組めるか、具体的な方略を正しく持つことを学ぶ。	1 通	30	1	○			○		○		
8	○			基礎教育学	教育の現場で生起している問題や事例を題材として専門的な概念や事象の読み解き方を見出す学習方法を身に付ける。	2 通	30	1	○			○			○	
9	○			心理学Ⅱ	標準化された検査のデータを利用し、心理検査の理論や構成を知ること・理解することを通して心理学における客観的視点の重要性を認識する。	2 通	30	1	△	○		○		○	○	
10	○			心理学Ⅲ	「心理学Ⅱ」で培った分析的視点を深めるため、「認識→理解→検証」の実践活動を行っていく。このプロセスを通してカウンセリングやセラピーに向けた基礎を形成する	3 通	30	1	△	○		○		○		
11	○			日本語学	様々なポイントから日本語のしくみを理解し、他の人にも簡単に説明でき、自分がどんな日本語使用者であるのかを客観的に振り返ることができるよう学習を深める。	1 通	15	1	○			○			○	

(医療専門課程 言語聴覚療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
12	○			日本語音声学	日本語の音のしくみがわかる。日本語の話し方の特徴がわかる。自分の話し方の特徴に気づけるよう学習を深める。	1 通	15	1	○			○			○	
13	○			英語Ⅰ	1.英語の基本的な文法を理解する。 2.日常生活に必要な文章が読めるようにする。 3.日常生活に必要な文章がかけられるようになる。	1 通	30	1	○			○			○	
14	○			英語Ⅱ	1.英語の基本的な文法を理解する。 2.日常生活に必要な文章が読めるようにする。 3.日常生活に必要な文章が書けるようになる。	1 通	30	1	○			○			○	
15	○			手話言語コミュニケーション	記号論における基本的用語、概念を紹介する。シンボルの世界に生きる存在としての人間のあり方を学習する。	1 通	30	1	○			○		○	○	
16	○			コンピュータサイエンス	パソコンによつての文章作成、計算等の知識と方法を学習し、プレゼンテーション作成の技術を身に付ける。	1 通	30	1	△	○		○		○		
17	○			研究入門	研究活動の基礎を理解する。	1 通	15	1	△		○	○		○		
18	○			健康とスポーツ	スポーツを通じて、コミュニケーション能力の向上やストレスの軽減を図り、日常生活の中で、運動をする習慣を身につける。また、健康について考え理解し、健康的な生活を送れるようになる。	1 通	30	1	△		○	○			○	
19	○			からだのしくみ入門Ⅰ	生物学ひいては人体に興味を持ち自ら学ぶ動機付けを得る。	1 通	30	1	○			○			○	
20	○			からだのしくみ入門Ⅱ	呼吸、発声、発語に関わる器官の基本的な仕組みや機能を理解し、それらがどのように協力して音声や言葉を作り出すかを学ぶ。	1 通	15	1	○			○		○		
21	○			からだのしくみ入門Ⅲ	神経系の基本的な構造と機能を理解し、脳や神経がどのように体のさまざまな部分と連携して情報を伝達するかを学ぶ。	1 通	15	1	○			○		○		
22	○			からだのしくみ入門Ⅳ	「耳」「きこえ」をテーマに、本分野に対する興味関心を持ち、また、後に専門基礎分野で履修する解剖生理学に向けた基盤づくりを目指す。	1 通	15	1	○			○		○		
23	○			人体の構造	主に解剖、生理、病理の導入から総論的部分、細胞学・組織学、そして全身の系、骨格系・筋系・脈管系の理解から機能・様態の理解を目標とする。	1 通	30	1	○			○			○	
24	○			人体の機能	高度に複雑化した人体の生存に必須の機能や病態について学習する。	1 通	30	1	○			○			○	

(医療専門課程 言語聴覚療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
25	○			医科学Ⅰ	医学、公衆衛生、保健・医療サービスな今後の広範囲な領域を学習するために必要な知識を身につける。	1通	30	1	○			○			○	
26	○			医科学Ⅰ	小児、成人、内科、外科を問わず幅広い領域を含む「リハビリテーション医学」の知識を身につけることに主眼を置く講義内容とする。	2通	40	2	○			○			○	
27	○			医科学Ⅱ	臨床医学分野の中でも「耳鼻咽喉科学」「形成外科学」「精神医学」の各医学分野について深めた内容を展開していく。	2通	40	2	○			○		○	○	
28	○			医科学Ⅲ	主に「内科学」の視点で疾病の原因・誘因、症状、診断、治療、予防に対して系統的に学ぶ。	2通	40	2	○			○			○	
29	○			医科学Ⅳ	医学専門分野にて活動・協働する「看護学」「薬学」「栄養学」といった各分野の専門的知識および関連について各分野の専門家により講義が行われる。	3通	60	2	○			○		○	○	
30	○			歯科学	歯科・口腔外科的疾患(う蝕、歯周病、口唇裂・口蓋裂、顎変形症、口腔腫瘍、嚢胞、顎骨骨折、歯性感染症、口腔粘膜疾患など)の特徴と治療法について学習する。	2通	20	1	○			○			○	
31	○			音声・言語・聴覚医学Ⅱ	音声・言語・聴覚医学に必要な神経の構造や機能、また病態について理解を深め、言語聴覚障害領域における専門内容を理解する為の基礎を学ぶ。	2通	30	2	○			○		○		
32	○			認知・学習心理学	学習、知覚、知能、測定といった学習面に関する基本的な用語、現象、理論について理解する。	1通	30	1	○			○		○		
33	○			生涯発達心理学	人の生涯にわたる発達を、心理学の観点から理解することを目指す。発達段階ごとの特徴や課題を学ぶ。	1通	30	1	○			○			○	
34	○			臨床心理学	心理査定、精神症状、心理面接および心理療法を中心に展開し、さまざまな状態像の解決を援助する方法を学習する。	2通	40	2	○			○			○	
35	○			カウンセリング論	実践的な体験型講義を通して、言語および非言語コミュニケーションや心理カウンセリングにおける援助を必要とされるクライアントに対するカウンセリング法を学ぶ。	2通	30	2	○			○			○	
36	○			心理測定法	心はどのように測定することができるか、心理測定法の基礎的知識について学習する。	2通	15	1	○			○			○	
37	○			言語学	言語のさまざまな見方を理解し、他の人にも簡単に説明できる。日本語がどんな言語であるか、例を挙げながら説明することができるよう学習を深める。	2通	30	1	○			○			○	

(医療専門課程 言語聴覚療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
38	○			音声学	日本語の音声のしくみが詳しくわかる。日本語の音声のしくみについて自分の言葉で説明することができる。音を正確に聞き取り、記述することができるよう学習を深める。	2通	30	1	○			○			○	
39	○			音響・聴覚心理学	「音」の物理学的・心理学的側面から講義し理解を深めることを目標とする。さらに、音響分析装置を用いて「音声」を観察し、臨床に応用できるようにする。	2通	40	2	○			○		○		
40	○			言語発達学	乳幼児期の発達心理学についての基礎知識を習得するとともに、心と行動の発達過程について客観的・科学的に理解する視点を養う。	1通	30	1	○	△		○		○		
41	○			障害児教育学	障害のある子どもと接する上で必要となる、教育の視点および、現在行われている特別支援教育制度を概括的にとらえることを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
42	○			社会 保 障 とリハビリテーション	「医療」「福祉」「教育」「社会保障制度、関係法規」といったリハビリテーションの活動領域を包括したリハビリテーション概論の容を理解する。	1通	15	1	○			○		○	○	
43	○			地域言語聴覚演習Ⅱ	地域言語聴覚演習Ⅰでの経験に加え、学んだ知識の活用を図るとともに、実践可能な活動を通して、リハビリテーションに関わる環境や活動全般に対する理解を深める。	2通	60	2		○		○	○	○		○
44	○			地域言語聴覚演習Ⅲ	地域包括ケアシステムを念頭に関係職種との活動を通して相互理解を深め、専門性と連携の意識、災害リハ等への関心を明確にしていく。	3通	60	2	△	○		○	○	○	○	○
45	○			言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害を学ぶ上で必要な基礎知識と臨床における基本的な考え方、言語聴覚士の職務内容および職業倫理を理解する。	1通	30	1	○			○		○		
46	○			言語聴覚療法評価学演習Ⅰ	神経心理学的検査を体験し、検査の流れ・内容を理解する。	1通	30	1		○		○		○		
47	○			言語聴覚療法評価学Ⅰ	言語聴覚障害の評価・診断につながる情報収集および記録、観察レポートについて具体的事例や実施法を学ぶ。	2通	15	1	○	△		○		○		
48	○			言語聴覚療法評価学Ⅱ	臨床家としての基礎知識を幅広い視点でとらえるように、言語症状の観察から客観的な考察、確定診断の流れを学習する。	3通	45	2	△	○		○		○		
49	○			言語聴覚療法評価学Ⅲ	相応臨床実習前後に臨床家としての基礎知識を幅広い視点でとらえるように、評価、再評価、予後対応まで全般的に学習する。	4通	45	2	△	○		○		○		

(医療専門課程 言語聴覚療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
50	○			失語症学Ⅰ	失語症の概要、言語情報処理の認知神経心理学的モデル、失語症の言語症状・古典分類を理解する。	1通	30	1	○			○		○		
51	○			失語症学Ⅱ	多彩な失語症のタイプ分類、失語症の評価・診断の原則、失語症検査の目的・方法を理解する。	2通	30	1	○			○		○		
52	○			高次脳機能障害学Ⅰ	脳機能を踏まえ、認知・行為のメカニズム、神経心理学の概要を理解することを目 標とする。	1通	30	1	○			○		○		
53	○			高次脳機能障害学Ⅱ	コミュニケーションに係る高次脳機能障害の理解ができることを目標とする。	2通	30	1	○			○		○		
54	○			失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ	失語症・高次脳機能検査の概要・実施手順を理解する。	2通	30	1		○		○		○		
55	○			失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ	失語症・高次脳機能検査をマニュアルに則り、実践できること、検査結果を記録にまとめ、的確に評価できること訓練のための必要な基本的臨床技能を身に付けることを目標とする。	3通	60	2		○		○		○	○	
56	○			言語発達障害学Ⅰ	定型の言語獲得過程を指標として、種々の発達障害に伴う言語発達障害の特徴・評価法の概要を理解することを目 標とする。	1通	30	1	○			○		○		
57	○			言語発達障害学Ⅱ	評価治療を行うための基礎知識とアプローチについて学ぶ。特に学習認知心理学・発達心理学の知識を踏まえた上で、言語発達支援に必要な考え方を理解する。	2通	40	2	○			○			○	
58	○			言語発達障害学Ⅲ	言語発達障害の評価・支援について理解し、評価治療を行うための基本的なアプローチについて学ぶ。	3通	30	1	○			○		○		
59	○			言語発達障害学演習Ⅰ	言語発達障害領域に関する職種間連携を学び、症例を用いて評価演習・支援計画演習を行う。	2通	30	1		○		○		○	○	
60	○			言語発達障害学演習Ⅱ	情報収集に必要な知識をもとに、適切な検査を選択し、実施できることを目標にする。また、事例をもとに子どもや保護者、周囲に必要な支援や訓練方法等を考える力を身につける。	3通	60	2		○		○		○		
61	○			発声発語障害学Ⅰ	発声発語障害に関する基礎的な知識(解剖・生理・音声学等)や病態、その他、理論的背景や音声の一般的な記録法を学び、発声発語障害を全体的に捉えることを目標とする。	1通	15	1	○			○		○		

(医療専門課程 言語聴覚療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
62	○			発声発語障害学Ⅱ	発声発語障害のなかでも流暢性障害(吃音)に関する理論と治療方法について理解する。	1 通	15	1	○			○		○		
63	○			発声発語障害学Ⅲ	発声発語障害のなかでも、口腔・中咽頭がん等や口蓋裂にて生じる器質性構音障害を理解する。	2 通	20	1	○			○			○	
64	○			発声発語障害学Ⅳ	主に喉頭病変、発声の困難さにより生じる音声障害について病態と訓練方法を理解する。	2 通	20	1	○	△		○		○		
65	○			発声発語障害学Ⅴ	コミュニケーション障害分野において、特に発現率が多いDysarthriaを対象に、基礎知識の習得、生じる疾患を理解して、運動障害による発話障害を理解する。	2 通	20	1	○			○		○		
66	○			発声発語障害学演習	Dysarthriaの発話の異常性、運動障害、神経学的特徴を加味しタイプ分類の判定方法について学ぶとともに、具体的方法、治療介入方法、発話の調整手法を理解する。	3 通	40	2		○		○		○		
67	○			嚥下障害学Ⅰ	摂食・嚥下の基礎である解剖・生理から嚥下モデル、嚥下障害を生じる疾患や病態について学ぶ。	2 通	30	1	○			○		○		
68	○			嚥下障害学Ⅱ	嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を中心とする摂食・嚥下障害の各種検査法と評価法について学び、適切な治療方針を選択できるようになる事を目標とする。	3 通	30	1	○	△		○		○		
69	○			聴覚障害学Ⅰ	聴覚の仕組みを理解し、その上で聴覚障害の種類と特性を知り、言語聴覚士として各種聴覚検査や助言、指導、訓練を行うための基礎知識を身につける。	1 通	30	1	○	△		○		○		
70	○			聴覚障害学Ⅱ	オーディオグラム、オーディオメータの用語・単位・原理についての理解、また各検査名とさまざまな区分についてその根拠から整理・理解する。	2 通	40	2	△	○		○		○	○	
71	○			聴覚障害学Ⅲ	補聴器・人工内耳、その他聴覚補償についての理解を深める。	3 通	40	2	○			○			○	
72	○			聴覚障害学Ⅳ	視覚聴覚二重障害、聴覚障害児教育を理解し、コミュニケーションスキルを高める。	3 通	30	1	○	△	△	○	○	○		○
73	○			言語聴覚療法管理学Ⅱ	ソーシャルスキルの活用方法、職能団体の具体的な役割、臨床現場をはじめとする現役言語聴覚士の活動事例、臨床施設報告、多職種連携について多くの実践例を中心に取り上げる。	2 通	20	1	○			○		○	○	
74	○			言語聴覚療法管理学Ⅲ	ソーシャルスキルの活用、職能団体の実際、臨床現場をはじめとする現役言語聴覚士の活動事例、臨床施設報告、多職種連携について実際の経験に触れる。	3 通	20	1	○			○		○	○	

(医療専門課程 言語聴覚療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
75	○			言語聴覚療法管理学Ⅳ	就業を見据えたソーシャルスキルの応用、職能団体の実際、臨床現場をはじめとする現役言語聴覚士の活動事例、臨床施設報告、多職種連携について実際の経験に触れる。	4通	60	3	○			○		○	○	
76	○			見学実習Ⅰ	施設見学を通して施設業務、チームの存在と役割や各種職種の専門性、職業倫理を学ぶ。	1通	45	1			○		○	○		○
77	○			見学実習	施設見学を通して施設業務、チームの存在と役割や各種職種の専門性、職業倫理を学ぶ。	2通	45	1			○		○	○		○
78	○			評価実習	言語聴覚療法および言語聴覚士の役割や専門性を学ぶとともに、対象者の全体像把握に必要な情報収集および評価(観察・面接・検査等)を計画・実施する。	3通	225	5			○		○	○		○
79	○			総合臨床実習	指導者の指導を受けながら対象者の評価・治療計画の立案、具体的治療の実施、その記録・報告、再評価など、STとしての一貫した治療行為を習得する。	4通	495	11			○		○	○		○
80		○		臨床言語聴覚療法Ⅰ	神経心理学的検査を被検者として、体験し、検査の流れ・内容を理解する。	2通	15	1	△	○		○		○		
81		○		臨床言語聴覚療法Ⅱ	失語症者とのコミュニケーション技術を身につけ、失語症者の外出時に必要な会話支援を学ぶ。	2通	20	1	△	○		○		○		
82		○		臨床言語聴覚療法Ⅲ	神経心理学的検査の検査技術や実践力を身につける。	3通	15	1	△	○		○		○		
83		○		臨床言語聴覚療法Ⅳ	臨床で使用できる呼吸リハビリテーションおよび呼吸理学療法の目的・技術について学ぶ機会とする。	3通	15	1	△	○		○		○		
84		○		臨床言語聴覚療法Ⅴ	神経心理学を基礎とし、脳画像読影の基礎を理解し、脳画像から種々の障害を導き出せるようになることを目標とする。	3通	15	1	△	○		○		○		
85		○		臨床言語聴覚療法Ⅵ	生活に身近な医学・健康問題などを取り上げ、自らの心身の健康状態の維持・改善に繋がるヘルスプロモーションについて理解を深めていく。	3通	15	1	△	○		○		○		
86		○		臨床言語聴覚療法Ⅶ	言語聴覚士が運動障害の治療にて必要な徒手療法について学ぶ。また、その前提として解剖・運動学の部分の復習を行い、対象者への適切な介入方法について理解を深める。	3通	15	1	△	○		○		○		

(医療専門課程 言語聴覚療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
87		○		臨床言語聴覚療法Ⅷ	実際に言語聴覚士が対象とするような患者情報の模擬データや、健康関連情報や大規模データを扱い、適切なソフトの選定や統計処理を施し、客観的な解釈を学ぶ。	3 通	15	1	△	○		○		○		
88		○		臨床言語聴覚療法Ⅸ	「音」「聴覚」をテーマにさまざまな機器を使用した狭い分野の臨床的活動および研究的領域の活動を行う。	4 通	30	2	○			○		○		
89		○		地域言語聴覚演習Ⅳ	「地域」とい「地域」という視点を持ちこれまでの科目の取り組みを引継ぎ活かす、より社会のニーズを捉えた視点および行動を求める。	4 通	30	2		○		○		○		
90		○		地域言語聴覚実習	医療以外の言語聴覚領域での臨床活動に係ることを目標とする者に対する活動機会として位置づける科目である。	2 ・ 3 ・ 4	90	2			○		○	○		○
91		○		言語聴覚療法各論Ⅰ	言語聴覚士にとって必須の基礎・専門知識について知識と理解を深めることを目標とする。	3 通	30	1	○			○			○	
92		○		言語聴覚療法各論Ⅱ	言語聴覚士にとって必須の基礎・専門知識について知識と理解を深め、各分野を集大成につなげる講義である。	4 通	30	1	○			○		○		
93		○		言語聴覚療法各論Ⅲ	言語聴覚士にとって必須の基礎・専門知識について知識と理解を深め、各分野を集大成につなげる講義である。	4 通	30	1	○			○		○		
94		○		言語聴覚療法各論Ⅳ	言語聴覚士にとって必須の基礎・専門知識について知識と理解を深め、各分野を集大成につなげる講義である。	4 通	30	1	○			○		○		
95		○		言語聴覚療法各論Ⅴ	言語聴覚士にとって必須の基礎・専門知識について知識と理解を深め、各分野を集大成につなげる講義である。	4 通	30	1	○			○		○		
96		○		言語聴覚療法各論Ⅵ	言語聴覚士にとって必須の基礎・専門知識について知識と理解を深め、各分野を集大成につなげる講義である。	4 通	30	1	○			○		○		
97		○		言語聴覚療法各論Ⅶ	言語聴覚士にとって必須の基礎・専門知識について知識と理解を深め、各分野を集大成につなげる講義である。	4 通	30	1	○			○		○		
98		○		言語聴覚療法各論Ⅷ	言語聴覚士にとって必須の基礎・専門知識について知識と理解を深め、各分野を集大成につなげる講義である。	4 通	30	1	○			○		○		
99		○		言語聴覚研究入門	「言語聴覚研究Ⅰ・Ⅱ」につながる研究活動の基礎を理解する。	2 通	20	1	△		○	○		○		

(医療専門課程 言語聴覚療法学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
100		○	言語聴覚研究Ⅰ	指導のもと研究活動を行い、信頼性と妥当性にそった研究計画の立案と実行を行う。学内発表までの過程を通して1つの研究テーマを形にする。	3 通	40	2			○	○		○		
101		○	言語聴覚研究Ⅱ	「言語聴覚研究Ⅰ」を履修した後、担当指導者の指導のもと研究活動を行い、学内発表の後、学外発表を見据えた活動を行う。	4 通	60	3			○	○		○		
合計			101 科目			3720 単位時間									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 開設している全ての必修科目を履修・修得し、学納金が未納でないこと。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。